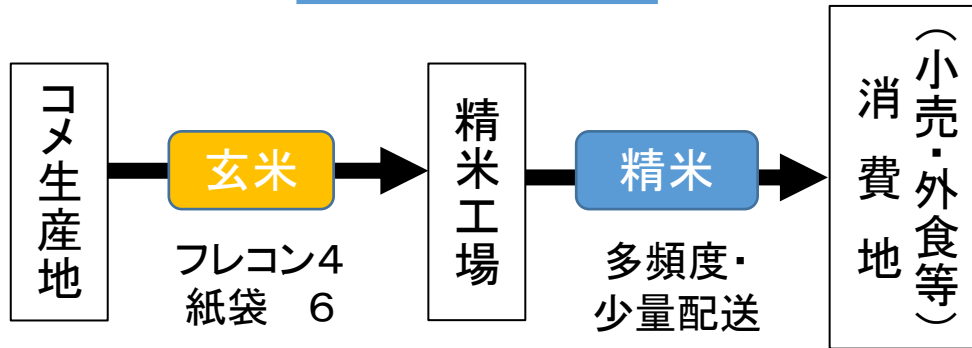


米（玄米・精米）の流通の取組

コメ(玄米・精米)流通の課題と今後の取組

コメ流通の特徴



コメは、重量物であり、流通の段階で荷姿が変わる商材。玄米流通、精米流通それぞれで異なる課題を抱える。

①玄米:

- ・産地(乾燥施設)から精米工場への物流形態は、紙袋(30kg)が6割、フレコン(約1トン)が4割。
- ・産地で乾燥貯蔵され、需要に応じて消費地近くの精米工場に運ばれる。

課題

玄米

- ・紙袋での物流は、荷物の積み降ろしに手荷役が多く発生し、ドライバーが敬遠。
 - ・フレコンは紙袋に比べて圧倒的に手荷役が少なく、積み降ろし時間が1/2から1/3に短縮されるが、普及率は4割にとどまる。
- フレコン化の推進(+紙袋輸送へのパレット導入の推進)が必要。

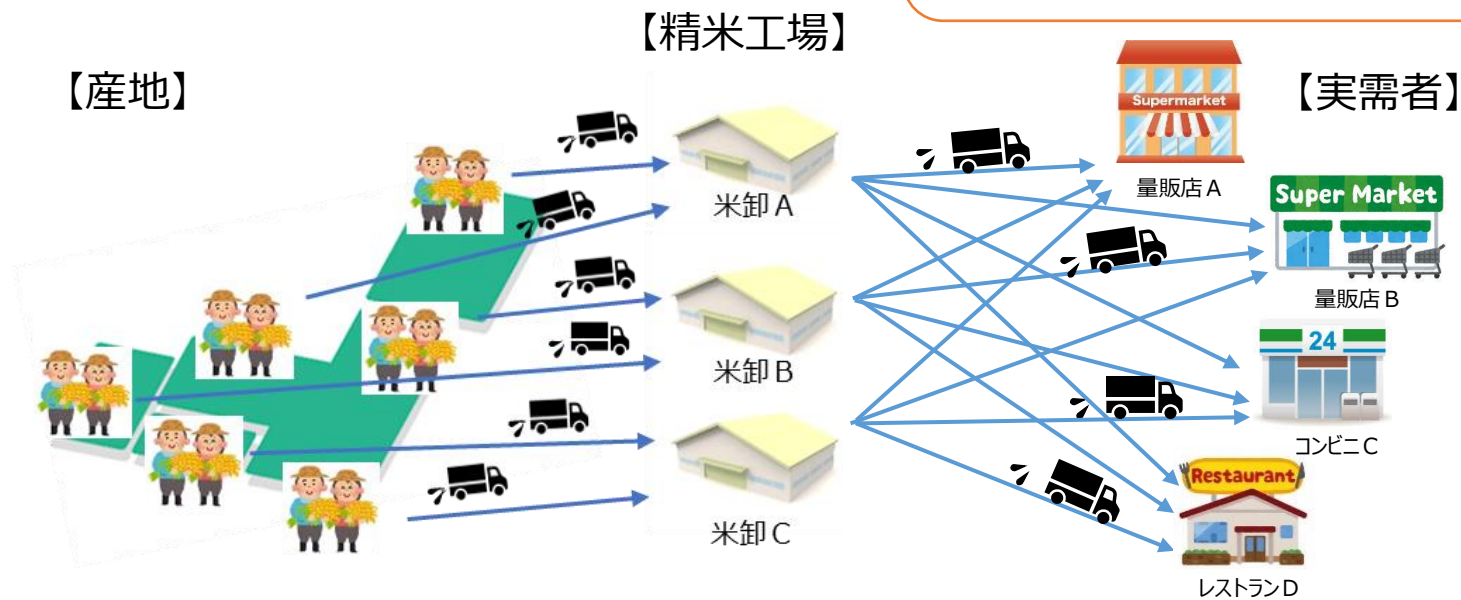
- ・特に物流の繁忙期(大型連休、年末年始等)や災害時には、産地から消費地までの輸送が困難となり、国民生活に支障を来すおそれ。
- 消費地近くにも玄米を保管できる物流拠点を整備できないか。

②精米:

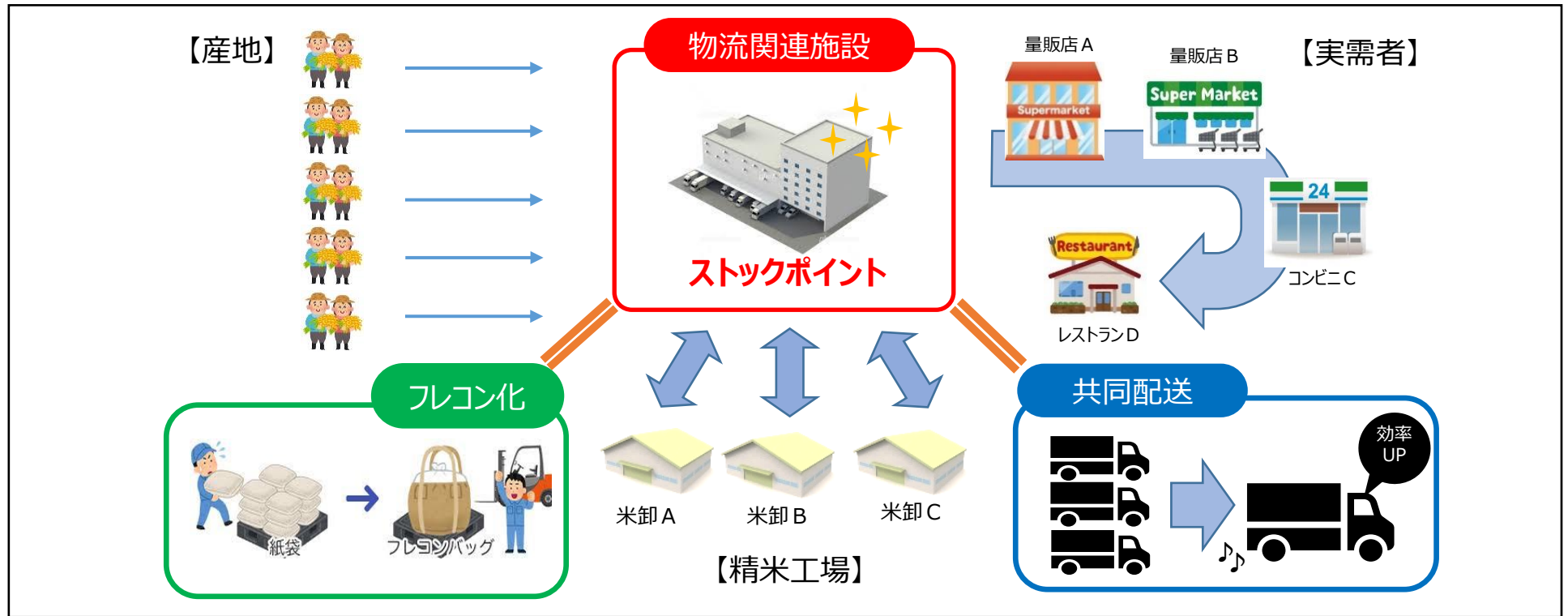
- ・様々な産地・品種・銘柄の商品があり、量目も1kg、2kg、5kg、10kg等と分かれているため、商品数が非常に多い。
- ・「生鮮食品」扱いであり、精米工場でも小売店舗でも長い期間の在庫は持つことができない。

精米

- ・各米卸事業者が数多くの種類の商品を、個別に各店舗や各配送センターに向けて配送。
 - ・発注から納品までのリードタイム(発注後○日)や精米年月日から納品までのリードタイム(精米後○日)が短い。
- 【多頻度・少量配送の常態化＝トラックドライバーの確保が困難】**
- 共同配送の取組や納品までのリードタイムの緩和により、できるだけ商品をまとめて配送することができないか。



○玄米の消費地保管＋精米の共同配送を推進
するためのストックポイントの整備



○フレコン化の推進

- ・積載効率が良く、安全性に優れたフレコン利用の推進
- ・フレコン利用のための機器整備

○共同配送の推進

- ・共同配送システムの整備
- ・共同配送による配送効率化の検証